

【研究論文】

# 実例でみる「SV了〈我〉時間」構文

李 菲

## 要旨

動詞が表す行為の動作者である「我（私）」が目的語の位置に現れる「SV了〈我〉時間」構文は、従来の研究では「倒置使役文」とよばれ、「時間の損失」を表す無生物主語の使役文としてとらえられてきた。しかし、これまでの分析は作例に基づくものが多く、当該構文が実際の発話の場面でどのように用いられ、どんな表現機能をもつかについての指摘が少ない。本稿は実例を通して当該構文の用法について考察した。SNSや動画サイトなどで実例検索を行った結果、「SV了〈我〉時間」構文は専ら短文投稿サイト（Weibo）での「つぶやき」表現として用いられていることがわかった。この構文は、主語のない形（「V了〈我〉時間」）で現れることが多く、さらに動詞が他動詞か自動詞かによって大きく二種類に分かれる。他動詞の文は、「話し手が動詞の表す行為を遂行するのに、長時間かかった」ことを表し、「思わぬところで、手こずってしまった」という意味が含まれている。一方、自動詞の文は、「ある事物が原因となって、動詞が表す話し手の行為や状態が長時間続いた」ことを表す。他動詞文と自動詞文は「行為の持続」を含意する点で意味的なつながりをもつ。

キーワード：無生物主語，使役文，構文，誇張表現

## 1 「時間の損失」を表す倒置使役文

中国語には、次のような変わった構造をもつ構文が存在する。まず、逐語訳をヒントに次の文の意味を考えてみよう。

- (1) 这只破熊 画 了 我 一天 (微博)  
 こんなクマ 描く ASP<sup>1</sup> 私 一日

中国語は英語と同じSVOの言語として知られる。通常のSVO、「主語+動詞+目的語」の語順で(1)の意味を考えると、「こんなクマが、私の絵を一日描いていた」と訳せる。しかし、実際には(1)は「私はこんなクマの絵を描くのに、一日を費やしてしまった」という意味である。主語の位置にある「クマ」が描く主体ではなく、描かれる対象であり、逆に目的語の位置にある「私」がクマの絵を描く主体である。

<sup>1</sup> ASPは、アスペクトマーカを指す。

これは、次のような通常の SVO、「S（動作主）+ V + O（動作対象）」の文と異なる。

- (2) 我 画 了 一天 熊。  
私 描く ASP 一日 クマ  
「私がクマの絵を一日描いた。」

(2) が通常の文ならば、(1) は動作対象と動作主の語順が逆さになった文である。このことから、(1) の構造をした文は従来、「倒置致使句」（倒置使役文）とよばれている<sup>2</sup>。「倒置」とは、「動作主と動作対象の位置が逆さになる、動作対象が文頭に前置される」ことを指す。英語や日本語にみられる「倒置文」「倒置法の表現」を思い起こさせるが、「倒置」の意味は異なる。

(1) は構造の面で通常の文と異なるだけでなく、意味の面でも特異性が見られる。(1) の文が伝えたいのは、「クマの絵一枚を描くのに、一日もかかってしまった」ことである。この文には、話し手の「思わぬことで手こずってしまった」や「一日を台無しにしてしまって、もったいない」といった苛立ちや悔しさが込められている<sup>3</sup>。しかし、こういったニュアンスは、(1) の文成分の字面の意味から読みとることができない。文を構成する要素に還元できない、非合成的な意味が(1)に含まれている。このような文に対しては、全体の意味を各要素に還元せずに、文全体を一つの「構文」として包括的にとらえる必要がある。

(1) の構造をもつ文は、倒置使役文に関する先行研究の中で、「時間の損失」を表す無生物主語の使役文としてとらえられている。「時間の損失」を表す倒置使役文の例としては、次の二つの作例が先行研究で取り上げられることが多い。

- (3) 那篇文章 改 了 我 一下午。(Gu, 1997)  
その文章 修正する ASP 私 午後  
「その文章を修正するのに、午後がまるまるつぶれた。」

- (4) 那个实验 做 了 他们 整整 一晚上。(Gu, 1997)  
その実験 する ASP 彼ら 丸 一晚  
「その実験をやり遂げるのに、彼らは丸一晚を費やした。」

Gu (1997) は、(3) (4) における最も大事なメッセージは「時間の損失」にあると指摘している。すなわち、両者は「ある行為を遂行するのに、長時間を要した」ということを表す文だとしている。Gu (1997) はこの「時間の損失」という意味に注目し、(3) (4) には「花／take」（かかる、費やす、費やさせる）という「covert verb」が隠れているとしている。その論拠として、(3) (4) の動詞を「花」（かかる、

2 (1) のような、「動作対象」と「動作主」の文中での位置が反転する文は、先行研究では様々な名称でよばれている。郭 (2006) では「倒置致使句」（倒置使役文）、周 (2006) では「客体归因句」（客体帰因文）、Gu (1997)・施 (2008) などでは「Inverted Causative Structure／反転使役结构」（反転使役構造）、さらに孫・郭 (2015) では「隐性述结式」（潜在動補構造）、石村 (2020) では「致事型数量动结式」（使役型数量動補構造）とよばれ、多くの研究者から関心をよせられている文法現象である。

3 話し手の苛立ちは「这只破熊」の「破」から読みとれる。「破」は指小辞 (diminutive) としての働きをもち、話し手の「クマ」への嫌悪感を表す。「这只破熊」は、日本語で言う「このクマめ」と対応している。

費やす、費やさせる) に変えても文が成り立つ点に言及している。

(3') 那篇文章 花 了 我 一下午。  
 その文章 take ASP 私 午後  
 「その文章を修正するのに、午後がまるまるつぶれた。」

(4') 那个实验 花 了 他们 整整 一晚上。  
 その実験 take ASP 彼ら 丸 一晚  
 「その実験をやり遂げるのに、彼らは丸一晚を費やした。」

(3') (4') は無生物主語の文である。動詞「花」は英語の take と同様、無生物を主語にとることができ、「(無生物) + 花 + (人) + (時間/お金)」の形で、「(無生物) のせいで、(人) がたくさんの時間やお金を費やした、失った」ことを表す。動詞「花」は「(人) に (お金や時間) を費やさせる」という使役の意味をもち、(3') (4') は無生物を主語とする使役文である。Gu (1997) は、(3) (4) を (3') (4') の使役文に変換し、両者の類似性を示すことで、(3) (4) のような倒置構造をもつ文も使役文の一種であるとした。使役構造をもつ (3) (4) において、主語の位置にある無生物の名詞句は「時間を損失させる原因 (cause)」であるという。

(3) (4) は無生物主語をもつ使役文の一種だとする見方の妥当性はさておき、こうした文は果たして単に「時間の損失」を表しているだけなのかについて、検討する必要がある。(3) (4) は (1) と同様、話し手の「文章の修正や実験が大変だった」、「費やした時間をもったいない」といった気持ちが込められている。そうした残念な気持ちがなく、単に「ある行為に使った時間」を言う場合、(1) (3) (4) のような倒置構造の文は成立しにくく、別の表現を用いなければならない。

(5) 我 十分钟 就 写完 那篇文章 了。  
 私 十分 だけ 書き終わる その文章 SF<sup>4</sup>  
 「私はたった十分でその文章を書き終えた」

(5')? 那篇文章写了我十分钟。

もし、「10分もしないうちに、クマの絵をすぐに完成させた」なら、やはり (1) の構造の文を使うことができない。

(1')? 这只熊画了我10分钟。  
 「10分でクマの絵を完成させた」

「時間の損失」や「倒置使役文」というだけでは、(1) (3) (4) のような文の特徴をとらえきれないことがわかる。以下では、短文投稿サイトである微博 (Weibo) で検出された実例を取り上げながら、こうした文の用法と意味について考察を行う。議論の便宜上、(1) (3) (4) の文を「SV 了〈我〉時間」構文とよぶ。

4 SF は、sentence final を指す。

## 2 つぶやき表現

従来の研究において、「SV了〈我〉時間」構文がどのような場面、文脈に出現しやすいのかについての議論があまりなされていない。これに対し、筆者は2022年12月から2月までの3ヶ月間、動画配信サイトやSNSを使い、中国語の話し言葉における「SV了〈我〉時間」構文の出現率について調査を行った。まず、動画やドラマ、映画を中心とするYouTubeとU-NEXTの場合<sup>5</sup>、一日2～3時間の視聴を3ヶ月間つづけても、確認できたのは次の1例のみだった。

- (6) 渴 了 我 十几个小时 (YouTube)  
 のどが渴く ASP 私 十何時間  
 「(水を飲ませてもらえず) 十何時間ものどが渴いたままだった」

3ヶ月間、毎日生の中国語を2時間以上聴きつづけても得られたのはこの1例のみである。つまり、「SV了〈我〉時間」構文は話し言葉にはほとんど現れない、と行ってよかろう。なお、(6)は主語がなく、かつ動詞「渴く」は自動詞であるので、先行研究における(3)(4)の文とタイプが異なる。この点についてはまた後述する。

一方、短文投稿サイトの微博では約93個の実例が見つかった。中国版Twitterとよばれる微博(Weibo)は、個人の日常生活での体験に基づく「つぶやき」が中心である。微博を中心に実例が多く見つかるということは、「SV了〈我〉時間」構文が目の前の相手に直接投げかけることばというより、話し手(短文投稿者)の心の声、感情を表出する一種の「つぶやき表現」となっているのではないかと考えられる。以下の例でみるように、感情を表出しているこうしたつぶやきは、「！」や絵文字が多く用いられている<sup>6</sup>。

- (7) 匡威夹心饼干太好看了, 等了我小半个月 (絵文字)  
 「コンバースの厚底スニーカーは本当に美しい。半月弱も待っていたんだ」<sup>7</sup>
- (8) 阿凡达2!!!! 我来了 (絵文字)  
 等了我多少年了 (五つの絵文字)  
 「アバター2!!!! 来たぞ 何年待たされたことか」<sup>8</sup>
- (9) 今天上班了, 咳了我一天!  
 「今日出勤したけど、1日ずっと咳がとまらなかった」

5 YouTubeでは社会・歴史がテーマの中国語のチャンネルを視聴し、U-NEXTでは中国語のドラマを視聴した。社会や歴史に関する話題を取り上げて解説するYouTubeでは書き言葉的表現が中心であるのに対し、ドラマでは口語的な表現が多い。

6 微博の実例に含まれている絵文字については、ワード上で同一のものを見つけられなかったため、本稿では単に「絵文字」で代用する。

7 「SV了〈我〉時間」構文が現れる前後文脈を提示するため、実例を原文のまま引用する。紙幅の関係上、以下では逐語訳を割愛する。

8 微博でのつぶやきは(8)のように、二行に分かれて表記されることが多い。これは投稿者の気まぐれというより、改行する場所が話題の提示と転換と大きく関わっている可能性がある。このため、本稿では改行の例についてはなるべくもとの形で提示する。中国語のつぶやきの文にみられる改行現象について、今後談話構造の観点からの分析が待たれる。

(10) 昨天看到了一张图，笑了我一节课 (絵文字二つ)

「昨日ある絵を見た。面白くて授業中ずっと笑いがとまらなかった」

(7) ~ (10) における「！」と絵文字の数から、投稿者の強い思いを読みとることができる。「(S) V 了〈我〉時間」の文は、個人の思い、実感を「つぶやき」という形で伝える際に用いられる表現であることがわかる。こうした構文は個人の思いを伝えるための「つぶやき」なので、目的語の位置にある「我」を、二人称の「你(あなた)」や視点や感情を共有していない第三者に置き換えることができない。

(7')\* 等了你小半个月

「あなたが半月弱も待たされた」

(10')\* 笑了一个人一节课

「ある人が授業中ずっと笑いがとまらなかった」

この点は郭(2006)でも指摘されている。郭(2006)によれば、倒置使役文の例において、「我(私)」や「他(彼)」などの人称代名詞が目的語になることが多く、人を指す一般名詞は倒置使役文の目的語になれないとし、次の例を挙げている。(11)は「異物付着」を表すタイプの倒置使役文である。郭(2006)はこれを「時間の損失」タイプの文と区別せずに、同じ倒置使役文として扱っている。

(11) a 那碗面吃了他一头汗。(郭, 2006)

「その面を食べていたら、彼が額いっぱい汗をかいた」<sup>9</sup>

b\* 那碗面吃了学生一头汗。

「その面を食べていたら、学生が額いっぱい汗をかいた」

bの文が成立しないという、この現象に対し、郭(2006)は談話構造の観点から分析し、「倒置使役文は目的語の位置にある使役対象を強調するための文ではないので、旧情報を表す人称代名詞が目的語に最も相応しい」と述べている。本稿ではこの現象に対し、「つぶやき」という観点からとらえてみたい。「SV 了〈我〉時間」の実例がほとんどSNS上での「つぶやき」表現であることを考えると、(7')(10')(11) bの不成立は、これらが個人の实感を表現した「つぶやき」ではないことと大きく関係していると思われる。つまり、目的語が「我(私)」だから実感になるのであって、「你(あなた)」や「ある人」「学生」だと実感ではなく、事実を客観的に伝える叙述文の口調になってしまう。一方、「我」以外に、三人称の「他(彼)」も当該構文の目的語になれるのは((4)、(11) aの例)、話し手の第三者への共感、感情移入と関係していると思われる。話し手が第三者と同じ目線で事態をとらえ、当事者としての「彼」「彼ら」の思いに共感し、感情移入したときに、(4)、(11) aのような文が生じるのだと思われる。

とはいうものの、(4)、(11) aは(7) ~ (10)のような実例ではなく、作例

9 以下、中国語の文献から引用した例文の日本語はすべて筆者によるものである。

である点に気をつけたい。ある表現が成立するということと、その文が実際の発話の場面でどのくらい用いられるかとは無関係である。そして、その表現の文法、意味の特徴を全般的にとらえるには、実際の発話の場面における実例をみる必要がある。倒置使役文の実例を調査すると、三人称の「他（彼）」が目的語となる用例にほとんど出会えない。これは「SV了〈我〉時間」の文が話し手の心情を表していることと関係している。(7)～(10)は、話し手の、自身の境遇や体験に対する一種の嘆きである。例えば、(8)は「待ちに待った映画がようやく見られることの嬉しさ」、(9)は「咳がとまらない状態で仕事に復帰したことの大変さ」、(10)は「笑いがとまらないほどの面白さ」をそれぞれ表現している。こうした感情は自分自身のものであり、ほかの誰かの感情を、「つぶやき」という形で表現することは、通常は考えにくい<sup>10</sup>。第三者のことを我が事同然のように感じなければ、(7)～(10)のような表現が生じにくい。三人称の「他（彼）」が目的語となる実例が少ないのはこのためであろう。

### 3 「V了〈我〉時間」の意味

次は、(6)～(10)でみた実例が、倒置使役文の先行研究における作例(3)(4)との違いについて考察したい。まず、実例と作例の最も大きな違いは、主語の有無である。(6)～(10)において、倒置使役文はすべて主語をもたない「V了〈我〉時間」の形となっている。

- (6) 渴了我十几个小时  
「十何時間ものどが渴いたままだった」
- (7) 等了我小半个月  
「半月弱も待っていたんだ」
- (8) 等了我多少年了  
「何年待たされたことか」
- (9) 咳了我一天  
「1日咳がとまらなかった」
- (10) 笑了我一节课  
「授業中ずっと笑いがとまらなかった」

それから、(6)～(10)の動詞のタイプが作例の(3)(4)と異なる。(3)(4)の動詞は作成の行為を表す他動詞で、動詞の動作対象(作成するモノ)が主語になっているのに対し、(6)～(10)では動詞「等(待つ)」以外はすべて動作対象をもたない自動詞である。例えば、(6)の「渴」、(9)の「咳」は「のどが渴く」「咳をする」という身体の状態を表している。(6)～(10)において主語が現れていないのは、動詞が自動詞であるため、そもそも動作対象をもたないことと関係していると思われる。

さらに、(8)のような、「了」が二つ入った「V了〈我〉(時間)了」という構造

10 三人称「他」で書かれている小説の場合、三人称「他」は実質一人称であるので、「他」は倒置使役文の目的語になることができる。

も(3)(4)と異なる。動詞直後のアスペクト(ASP)「了」と、文末助詞の「了」(SF)を二つ並べた「V了…了」の文は、英語の現在完了の「継続」用法に似た働きがあり、「過去のことが現在も継続している」ことを表す。(8)も「行為・状態の継続」の意味を含んでおり、「待ち続けて、もう何年になるか」を意味する。先行研究は(3)(4)の文を「時間の損失」の意味でとらえているが、「V了〈我〉(時間)了」は、「損失した時間」よりも動詞が表す行為・状態がなおも続いていることに焦点をあてている。

以上は作例だけでは知りえない、実際の例文にみられる構造上の主な特徴である。従来の研究ではふれられていないこうした特徴を、以下の3点にまとめることができる。

- ①主語のない、「V了〈我〉時間」の文
- ②動詞が自動詞である文
- ③時間の継続を表す「V了…了」の文

こうした構造上の特徴は、構文がもつ意味と直結している。ここで、(6)～(10)を、動詞が他動詞(等「待つ」)か自動詞かによって二つのタイプに分け、それぞれの構文がもつ意味について考えてみたい。まず、他動詞「等(待つ)」からなる(7)(8)は、待ち望んでいるモノを手に入れるまでの長い期間に焦点をあてており、「ものすごく長い時間がかかった」ことを表している点で、「時間の損失」ととらえられる。さらに、(7)(8)は動作対象(待ち望んでいるモノ)を主語の位置に加えることができる。次の(12)は形も意味も、作例の(3)(4)と同じタイプである。

(12) 匡威夹心饼等了我小半个月。(作例)

「コンバースの厚底スニーカーを手に入れるのに、半月弱も待っていた」

したがって、(7)(8)は主語が現れていないものの、構文が含意する意味に関しては、先行研究で論じられてきた作例(3)(4)と類似していることがわかる。他動詞からなる(7)(8)は、(3)(4)に最も近い実例といえる。

(7)(8)に対し、自動詞からなる(6)(9)(10)は動作対象をもたず、ゆえに主語を加えることが難しい<sup>11</sup>。そして、意味の面でも(7)(8)と大きく異なる。「時間の損失」を含意できる(7)(8)に対し、(6)(9)(10)が表しているのは自動詞が表す「行為・状態の継続」である。「十何時間も飲み物を与えてもらえず、のどが渴いたままだった」、「一日ずっと咳がとまらなかった」、あるいは「授業中ずっと笑わずにはいられなかった」ということから、(7)(8)という意味が読みとりにくい。こうした表現は、ある行為や状態が長時間つづいたことを表すことで、そうした事態をもたらした環境や原因の事物が「常軌を逸している」ことを伝えている。

例えば、私たちは「授業中、教科書の中から偶然すごく面白い絵を発見して、そのせいで授業中笑いがとまらなかった」としよう。そしてそのことをSNSなどで、

11 自動詞からなる文で、主語をもつ実例も検出されている。ただ、後述するように、自動詞文における主語は動詞の動作対象ではなく、動詞が表す行為、状態を招いた原因としての事物である。

(10) のようにつぶやいたとする。恐らく、そのつぶやきで伝えたいのは「絵の面白さ」であり、「ああ、笑いで一コマの授業の時間を失った」ではないはずである<sup>12</sup>。このように考えると、(10) の意味は実は二重構造になっていることに気づく。すなわち、一つは「授業中笑いがとまらなかった」であり、もう一つは「笑いがとまらないほど、絵が面白かった」である。

それからもう一つ大事な点がある。そもそも、(10) における「笑了我一节课（一コマの授業の間、笑っていた）」を文字通りに解釈してよいだろうか。授業時間にもよるが、50分授業なら、「50分間ずっと笑えばなしだった」ということになる。普通の人間ならまず無理であろう。したがって、(10) は一種の誇張表現 (hyperbole) としてとらえるべきである<sup>13</sup>。「一コマの授業」という長めの時間を設定することで、「笑いがとまらなかった」ことを誇張して表現する。さらに、「笑いがとまらない」ことを通して、偶然見つけた絵の面白さを伝えたり、あるいは授業に集中できないことを悔やんだりする。このように、(10) が含意しうる意味は多重構造となっており、それを単に「時間の損失を表す」という意味でとらえてしまうと、当該構文がもつ意味機能、表現機能を見えにくくさせているといえる。

#### 【(10) が含意しうる意味】

- ・ 授業中笑いがとまらなかった
- ・ 絵が面白かった
- ・ 授業を台無しにした（大事な授業で、話し手が真面目な学生の場合）

この意味のリストの中から、どれを汲み取るかは聞き手次第である。構文の意味を「時間の損失」と単一的にとらえてしまうと、当該構文が「誇張」表現としてもっている修辞効果、表現機能が見えてこない。

以上は(10)を例に、自動詞タイプの文の意味について考察したが、(6)(9)についても同様のことがいえる。(6)では「喉が渴いた時間」が大事なのではなく、「水を飲ませてもらえない過酷な環境だった」ことが文脈からもみてとれる。(9)では咳が続いた時間を誇張することで、「病気がまだ回復しておらず、咳に悩まされている」ことを表現している。

こうした修辞的表現としての特徴は、他動詞からなる(7)(8)からも見てとれる。

「待ち望んでいたモノと対面するまでかかった時間の長さ」という意味が読みとれると同時に、「ようやく対面できることの嬉しさ」「待ちきれない気持ち」、さらには「待ち望んでいるモノへの期待や愛着」なども含意されている。「！」と「絵文字」の数がこうした気持ちを直接表している。単に「失った時間の長さ」を述べるなら、「！」と「絵文字」を用いる必要がない。よって、(7)(8)も単に「時間の損失」を表すだけの文ではないといえる。

12 ただし、真面目な学生の場合、あるいは試験に関わるような大事な授業ならば、「時間の損失」の意味で解釈することが可能である。

13 李 2021 では、「異物の付着」を表す倒置使役文「V+了+我+一身汗」は一種の誇張表現 (hyperbole) であることについて指摘している。「V+了+我+一身汗」は文字通りに訳すと、「ある行為をした結果、全身汗だくになった」という意味であるが、実際は「全身汗だく」の状態にならなくても当該構文を用いることができる。「全身汗だく」という誇張した結果事態を述べることで、話し手が「思わぬことで手こずってしまい、苦労させられた」ことを表す。「V+了+我+一身汗」は、本稿の考察対象である「SV了〈我〉時間」と同じ表現効果、表現機能をもつことがみてとれる。

## 4 主語つきの文

ここまで、主語をもたない実例について紹介した。次は、主語をもつタイプの「SV了〈我〉時間」の実例を取り上げたい。主語つきの文は主語なしの文に比べ、用例の数が少ない。3ヶ月間にわたって微博上で実例検索をした結果、主語なしの文が66例、主語つきの文は27例検出された。つまり、(6)～(10)のような主語なしの文が全体の約7割を占めているのに対し、主語つきの文は全体の約3割にとどまっている。主語つきの文は数が少ないものの、形がバリエーションに富んでいる点が興味深い。一言「主語つきの文」といっても、それらの文は、主語の名詞句の形、動詞の意味、副詞の「就」の有無などで顕著な違いがみられる。以下では、大まかに三種類に分けて、それぞれの例を見ていく。

### 4.1 数量フレーズ

一つ目は、主語の名詞句が数量フレーズとなっているタイプである。数量フレーズとは、「数字+量詞<sup>14</sup>+名詞」の構造をもつ名詞句を指す。主語となる数量フレーズの中でも、「一+量詞+名詞」の形が多く見られる。

- (13) 一张小卡等了我一星期  
「たかがカード一枚で、一週間も待たされた（一週間もかかった）」
- (14) 一个外卖等了我三个半小时（絵文字）  
「出前一つで三時間半も待たされた」
- (15) 1000个字整了我一晚上（絵文字）下班下班！  
「一千字を書くのに、一晩かかった。仕事終了！」

(13)～(15)の主語は数量フレーズの形をとっているが、数量を表しているだけではない。「一つの～」という表現は、文末の長い時間を表すフレーズと対比をなしており、両者の落差が引き立つ。主語の部分で「行為が簡単に遂行できること」を期待させておいて、文末の時間フレーズで「長時間かかった」ことを言う。そしてこの落差から、「たかが～くらいで、長い時間をとられた」という意味が生じている。これらの文から確かに「時間の損失」を感じることができるとは、それに加え、「思わぬところで手こずってしまった、予想通りに物事が進まなかった」という意味も含意されている。

(13)～(15)では、主語の名詞句が動詞の動作対象でもある。これに対し、次の例では、主語が動詞の動作対象ではなく、動詞が表す行為を引き起こす原因となっている。動詞との関係性が以上の例と異なるが、主語の形が数量フレーズである点は同じである。

- (16) 一顿烧烤  
拉了我一早上

14 「量詞」は「助数詞」を指す。

(絵文字三つ)<sup>15</sup>

「焼肉のせいでお腹を下し、朝はずっとトイレから離れられなかった」

意味の面では、この文はむしろ主語なしの(10)の文と類似している。動詞「拉」は「排泄をする」という行為を表す。動詞の意味を考えると、(16)は(13)～(15)に含意されている「時間の損失」の意味が読みとりやすく、「長時間にわたる行為・状態の継続」として理解すべきである。(10)との違いは、そうした状態を引き起こした原因が直接文の主語として言語化されている点である<sup>16</sup>。

#### 4.2 副詞「就」

次は、主語の名詞句の後に副詞「就(～だけで)」が現れている例である。倒置使役文では「就(～だけで)」が現れやすい点については、郭姝慧 2006 がすでに指摘しているが、実例を挙げていない。微博上で見つかった次の実例は、主語が「特定」の事物を指す名詞句である。この点は、数量フレーズが主語となる4.1のグループと異なるが、副詞「就(～だけで)」を伴うことで、4.1のグループと同様の意味を表すことができる。すなわち、「～をただで、長い時間を取られた」という意味を次の(17)(18)から読みとることができる。数量フレーズがはたしている役割を、副詞「就」が代わりに担っているということができる。

(17) 这堆报销单就搞了我一早上(絵文字)

「これらの領収書进行处理するだけで、朝の時間が全部つぶれた」

(18) 广告前的科普部分大纲就做了我两个多星期(的下班后啦)

「コマーシャルの前に流す製品紹介の部分の概要を作るだけで、二週間以上残業させられた」

このタイプの動詞はすべて動作対象をもつ他動詞であり、主語が動詞の動作対象でもある。(16)のように原因が主語となり、さらに直後に「就」を伴う例は見つからない。(17)(18)は(13)～(15)と同様、「時間の損失」を含意すると同時に、「思わぬところで手こずってしまった」ことを表す。

#### 4.3 原因を表す主語

最後は、動詞が自動詞で、かつ主語が現れているタイプの文である。この場合、動詞が動作対象をもたないため、(13)～(15)や(17)(18)のような他動詞の文に比べると、主語と動詞との関係性がやや複雑になるが、概ね「原因」としてみることができる。

(19) 这图笑了我一宿哈哈哈哈哈

「この絵で一晩笑いがとまらなかった。アハハハハハ」

15 この例も上の行と下の行に分かれている。改行がもつ意味機能を考慮し、元の形で提示する。

16 倒置使役文に関する先行研究では、(16)のように「原因」が主語となる例も紹介されているが、ほとんどが作例である。

この例における主語の「この絵」は、「私を一晩笑わせた」原因である。これは(10)と全く同じ事態を表しており、「笑いが一晩続いた」ことによって「絵の面白さ」を伝える点も同じであり、一種の誇張表現としてみるができる。(10)との違いは、「絵」を主語に立てるかどうかだけである。(10)は主語にせずに、前の節で「絵」の存在を登場させているのに対し、(19)は原因の「絵」を主語に立てている。事態を引き起こす原因が主語となる点で、(16)と同じである。次の例の主語も事態の原因ととらえることができる。

(20) 22 个病人忙了我一晚上<sup>17</sup>

「患者が22人もいたので、一晩ずっと忙しかった」

この文の主語である「22人の患者」は、動詞「忙(忙しく働く)」の動作対象とはいえない。「?忙 22 个病人」は成立しない。よって、「22人の患者」は話し手が一晩忙しく働いた原因として主語となり、文全体が「患者が22人もいたので、忙しかった」ことを表す。この場合、動作対象が主語となる他動詞文に含まれている「たった～しただけで、予想以上の時間がかかった」という逆説的な意味がない。「22人の患者」と、「一晩働きづめだった」こととは自然な因果関係である。

(21) 肚子痛了我一晚上…无言…

「一晩中お腹が痛かった…無理…」

この文の主語「お腹」は文全体の中で二つの役割をもつ。一つは、動詞「痛む、痛い」の主語として、痛みがある部位を表す。もう一つは、「話し手を一晩苦しませた」原因としての役割である。(19)(20)では状態が長く続いた原因は外界にあるのに対し、(21)の場合その原因が外界ではなく、自分の内部にある。つまり、「お腹」に苦しみをもたらす原因として外から「客観的に」とらえている。(21)は単に「腹痛が一晩続いた」ことだけでなく、「お腹のせいで(腹痛のせいで)、一晩苦しかった」という「被害」の意味も含まれている。この「～のせいで、(ある状態が長く続いた)」という「被害」の意味は、自動詞文の全体にみられる意味特徴である。

## 5 まとめ

ここまで、「SV了<我>(時間)」構文の実例を色々見てきた。最後は、構造、動詞の意味、構文全体の意味特徴、という三つの観点から、これらの例をもう一度整理してみたい。まず、構造の面では、主語なしの文と主語つきの文の二種類が見られ、主語なしの文が全体の7割を占める。

表1 主語の有無による分類

S V 了<我>(時間)	主語なし	V 了<我>(時間)	Ex: 等了我小半个月
	主語つき	S V 了<我>(時間)	Ex: 一张小卡等了我一星期

17 この文は、主語が数量フレーズであるが、動詞が自動詞であり、かつ文全体の意味特徴が(13)～(15)と異なるため、4.1のグループと区別して考える必要がある。

主語つきの文は、主語の形、副詞「就」の有無、主語と動詞との関係によって、三種類に分類できる。

表2 三種類の主語つき文

S V 了〈我〉(時間)	Sが数量フレーズ	Ex: 一张小卡等了我一星期
	S 就 V 了〈我〉(時間)	Ex: 这堆报销单就搞了我一早上
	Sが原因	Ex: 这图笑了我一宿

従来の研究で、「時間の損失」を表す倒置使役文として紹介されている例は、この主語つきのタイプであると思われるが、(3)(4)のような例は以上の三種類のいずれにも属さない。すなわち、主語は指示詞を含む名詞句からなり、副詞「就」を伴わず、かつ動詞が他動詞の例は今回の調査では検出されていない。意味の面では、主語つきの文は主語なしの文にはない特徴がみられる。特に、動詞が他動詞で、主語がその動作対象である場合、「たった～しただけで(長時間がかかった)」というニュアンスが含意されている。数量フレーズという形や副詞「就」がこの意味の産出に貢献している。また、こうしたニュアンスを含意させないようにすると、文の容認性が低くなる。(13)の主語から数量詞を取り除いた次のような文は成立しにくい。

(13') ?小卡等了我一星期

主語つきの文は主語なしの文より用例の数が少ないことも考え合わせると、主語なしの文に比べ、主語つきの文は文法と意味の両面で用法上の制限が大きいと思われる。

動詞の意味からみると、「SV了〈我〉(時間)」の文は、自動詞からなる文と他動詞からなる文の二種類に分類される。自動詞文はさらに、主語をもたない文と、原因が主語となる文の二種類がみられる。両者の違いは、事態を招いた原因を主語にするかどうかにある。

表3 動詞の意味特徴による分類

	動詞	主語の有無	実例	意味
SV 了〈我〉(時間)	自動詞	V 了〈我〉(時間)	Ex: 笑了我一节课	ある事物が原因で、行為や状態が長時間続いた 訳:「～のせいで、～せずにはいられなかった・～しっぱなしだった」
		SV 了〈我〉(時間) *Sは原因	Ex: 这图笑了我一宿	
	他動詞	V 了〈我〉(時間)	Ex: 等了我小半个月	思わぬところで、ある事物に時間をとられ、手こずってしまった 訳:「たった～したくらいで、～の時間もかかってしまった」
		SV 了〈我〉(時間) *Sは動作対象	Ex: 一张小卡等了我一星期	

この表から、自動詞文と他動詞文は構造面だけでなく、意味の面でも違いが大きいことが見てとれる。自動詞ならば、構文全体が「行為・状態の持続」の意味となり、他動詞ならば、全体が「時間の損失」の意味に傾く。

ただ、他動詞文にも「行為の持続」という意味が含まれている。例えば、「等了我一星期(一週間も待った)」という発話には「一週間も待ち続けた」という意味と、「(カードが届くまで)一週間かかった」の両方の意味が含まれる。「行為の持続」と「時間の損失」はいわば原因と結果のような関係にあり、隣接している概念である。自動詞文と他動詞文は「行為の持続」という意味でつながっており、自動詞文は「行為・状態の持続」を、他動詞文は「時間の損失」をそれぞれ前景化したものと考えられる。

以上の考察結果からわかるように、従来「倒置使役文」などの名称でよばれている一連の文は実はいくつかの、異なる構造と意味をもった構文の集まりである<sup>18</sup>。これらは、形や意味の面で共通点がみられるものの、「倒置使役文」という名称で一括りにして論じるには無視できない違いも多い。当該構文の実態を把握するためには、単一の意味と形にとらわれない、多義性の観点が求められる。

### 参考文献

- Gu, Yang. (1997). On defining causativity and the significance of discourse information. *Text & Talk*, 17(4), 435–455. <https://doi.org/10.1515/text.1.1997.17.4.435>
- 郭姝慧 (2006) 「倒置致使句的类型及其制约条件」。『世界汉语教学』, (2): 40–50。
- Goldberg, Adele E. (1995). *Constructions: A construction grammar approach to argument structure*. Chicago: University of Chicago Press.
- 李菲 (2021) 「中国語倒置使役文と関連構文」。『東京大学言語学論集』, (43): 103–117。
- 石村広 (2020) 「致事型数量动结式的产生机制—一致动用法的发展和变异」。『当代语言学』, (22): 1–16。
- 施春宏 (2008) 『汉语动结式的句法语义研究』。北京: 北京语言大学出版社。
- 孙天琦, 郭锐 (2015) 「论汉语的“隐性述结式”」。『语言科学』, (5): 459–472。
- 周红 (2006) 「客体致使句的认知语义分析」。『语言研究』, 26(3): 20–25。

18 Goldberg (1995) では、構文というものの性質について、「Constructions are typically associated with a family of closely related senses rather than a single, fixed abstract sense.」(p.31) と指摘している。本稿の考察結果からも、構文は単一の意味と形をもった固定した、抽象的なものというより、いくつかの、意味が緊密に関連している構文群であることが見てとれる。